



経営の散歩道

一六三回

富山短期大学名誉教授 川中清司

「きょうコウちゃんがお休みした。リストラかな。」、保育園から帰ってきた五才の孫がこう言うのには驚いた。

もちろん意味は分かるまいが、幼児の口からリストラが言葉として出てくる、それほど厳しい時勢なのだ。

資金ぐり急速に悪化

いま3月、所得税確定申告の真最中、事業者の決算内容が悪い。売上が減り資金繰りが急に悪化し始め、行き詰まる企業が増えてきた。「このままでは危ない」、税理士事務所でつかみ取るナマの景況感だ。

地元の信用金庫支店現場でも「何とかして追加貸付の手がないか」と、担保見直しなどギリギリの融資対策に知恵をしぼっている。

だが、金融機関から見放される企業も少なくない。

「貸し渋りどころではない、貸し剥がしだ。中小企業は悲鳴をあげている」、と平沼超夫・経済産業相。

「九八年より中小企業に対する貸し渋りは顕著だ」、日商の山口信夫会頭。トップの認識も厳しい。

ペイオフ前に銀行の整理

貸す方も苦しい。十三年に破綻した信金・信組はなんと四十二にも達し、石川銀行は暮れの土壇場、十二月二十八日に破綻申請した。

金融庁は、ペイオフ解禁の前に、金融機関の問題点を明らかにするため検査を厳しく急いでおり、その姿勢の前に、問題のある銀行は退場を余儀なくされた。

塩崎泰久代議士によると、銀行法はすべて整っていて

「金融庁は銀行の経営者のクビもとれば、業務停止も、免許の剥奪もできます。新しい道具や手だては何も要りません」と言う。

下がる首相の支持率と株価



大きく問われている。

迫る「日本売り」の構図

株価下落が生み出す悪循環は恐ろしい。銀行や生保の株式含み損がふくらむ↓金融機関の体力が弱まる↓格付けが次第に下がる↓国債価格の下落↓不況下の長

三月危機を乗り切る

乗る切る

小泉内閣の支持率が五十%近くに落ちた。田中真紀子前外相の更迭の余波もある。だが構造改革の遅れを反映して株価も急落した。

二月六日に九四二〇円となり、バブル後の最安値、約十八年ぶりの低水準だ。大企業や金融機関の連続破綻といった「三月危機」の懸念が高まり、今、内外から政府の金融危機への対応が

政策の足踏み空回り

小泉首相は、「金融危機

を起さないため、あらゆる手段を講ずる」と強調する。そのあらゆるとは何か。

「必要なら銀行を国有化します、ぐらい言わないと、私たちには伝わらない」と外国人投資家は言う。

いま財務、金融の政策が空回りして前に進まない。財務省は、金融政策でデフレ回避せよと日銀に責任を押し付ける。日銀は、金融政策だけではデフレの解消は限界にあると、金融機関へ公的資金の再注入を迫る。

金融庁は、再注入には慎重で、証券税などの減税を望む。財務省は、国債発行の枠三十兆円なのに減税はできない。このまま政策の空転が続けば、「間違ひなく日本経済はつぶれてしまふ」という焦りと危機感が漂う。

与党内にも四月からのペイオフ解禁の再延長を含めた政策転換を求める声も聞こえる。

消費拡大と構造改革に待ったなし

「これが日本経済再生の最後のチャンス」だと、中谷巖・多摩大学学長はこん

な手記を発表している（産経2/8）。

○消費を回復させるため・消費税を0にして半年ごとに2%ずつ引き上げ二年で元に戻す・贈与税を三千万円まで無税にする

○その間に構造改革を集中的に成し遂げる

○小泉国債十兆円を五年償還で発行し、財源は特殊法人の廃止などあらゆる手段で節約して生み出す

○こうして国民に希望を持たせる

だが、われわれは自分の手で企業を守らなければならぬ。政府頼りの操り言を並べても、己の道は開けない。

「Light the Fire Within (心の火を燃やせ)」ソルトレークシュー・五輪のスローガンは、そのままわれわれの旗印となる。

中小企業の三月危機はこれから始まる。何としても乗り越えなければならぬ。